

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-730	A-750	14-064
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
Harmful and beneficial relationships between alcohol consumption and subclinical atherosclerosis. 飲酒量と潜在性動脈硬化指標との関連 —飲酒は害か有益か—		
執筆者		
Kim MK, Shin J, Kweon SS, Shin DH, Lee YH, Chun BY, Choi BY.		
掲載誌		
Nutr Metab Cardiovasc Dis. 2014 Jul;24(7):767-76. doi: 0.1016/j.numecd.2014.02.004.		
キーワード		PMID
飲酒、冠動脈 IMT、介在因子、脈波伝播速度、潜在性動脈硬化		24694837
要 旨		
目的： 動脈スティフネス及び内膜中膜複合体肥厚 (IMT) の増加は心血管病の主な予測因子である。本研究では上腕一足首間脈波伝播速度 (baPWV) 及び冠動脈 IMT と飲酒量との関連を断面解析により明らかにする。		
方法： 韓国遺伝子疫学研究の一環として実施した。40 歳以上の韓国人 5,539 名 (男性 2,121 名、女性 3,418 名) を対象とした。		
結果： baPWV は男性において飲酒量と正の関連がみられた(傾向性の P <0.0001)。この関連は 65 歳以上でより強く認められた。一方、男性の冠動脈 IMT と飲酒量は負の関連を示した。関連はいずれも直線的で、いわゆる J カーブではなかった。脂質因子で調整すると関連は減弱した。女性ではこれらの関連を認めなかった。		
結論： 飲酒量と動脈スティフネスには直線的な正の関連、冠動脈 IMT には負の関連がみられた。高齢層でより強く認められ、脂質因子が介在している可能性が示唆された。		